

ジェンダー主流化の視点

第 2 回ジェンダー主流化推進本部
2025.8.26

1. ジェンダー主流化の視点

(1) 利用者の視点

(2) 担い手の視点

(3) 社会・経済の視点

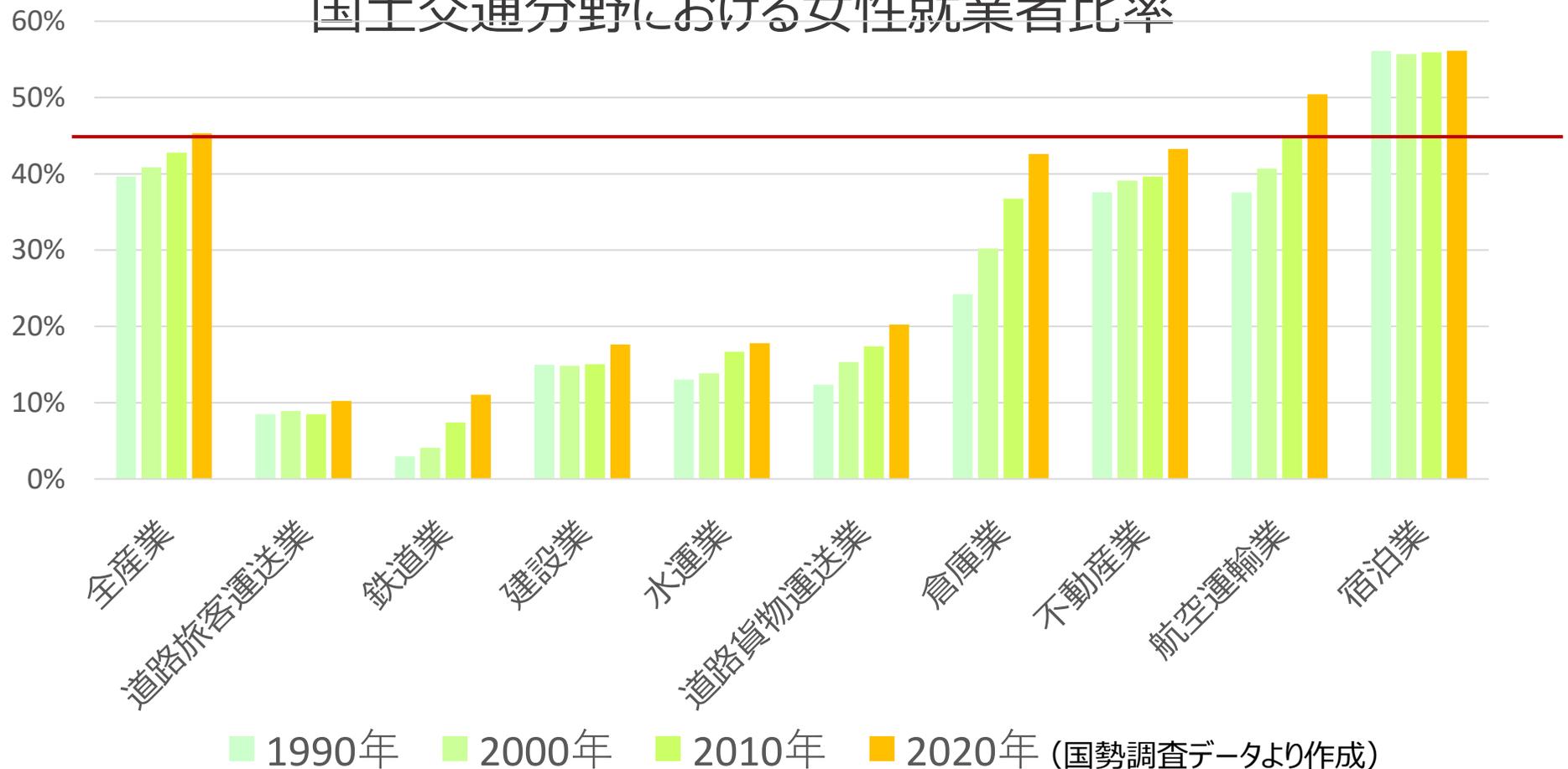
2. 負のスパイラルからの脱出

(1) 利用者の視点

近年、ジェンダー主流化の必要性について、**社会的な機運**が高まっている。
(第1回国土交通省ジェンダー主流化推進本部資料参照)

国土交通分野の女性就業者比率は上昇傾向にあるが、全産業に比べて**建設業・運輸業**は低水準

国土交通分野における女性就業者比率

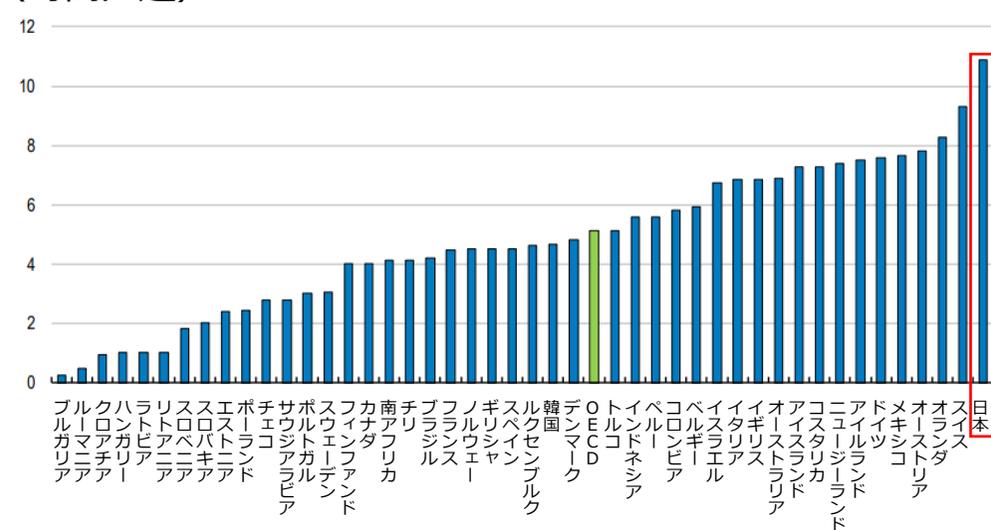


(3) 社会・経済の視点

日本は、国際的にみて女性に比べ男性が多く働いており、女性活躍を推進することで、GDP向上を含め**社会・経済の活性化**も期待できる。

労働時間におけるジェンダーギャップ

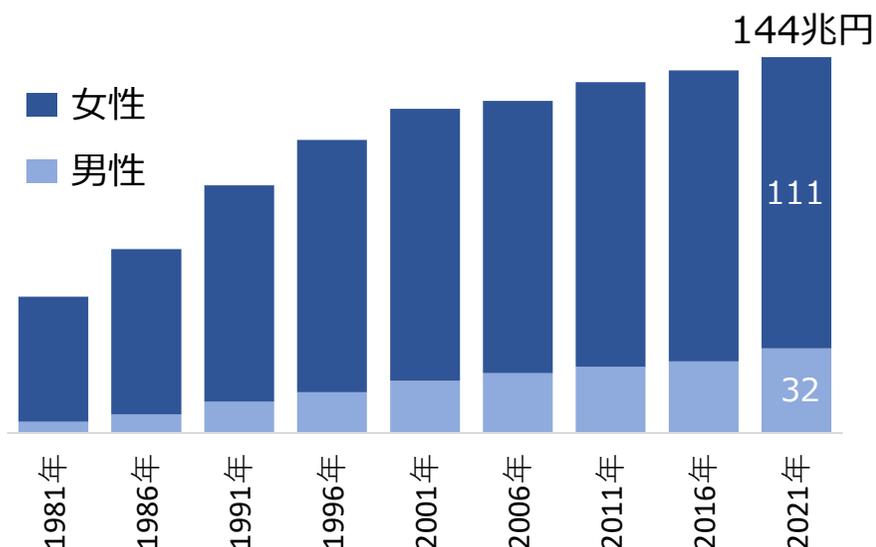
(時間/週)



(出典) OECD「Gender Mainstreaming in OECD Economic Surveys」2024年

- 日本は労働時間の男女差が大きい。
- 日本での非正規雇用や家事分担の割合は、女性の方が高い。

無償労働（家事）の貨幣評価



(出典) 内閣府「無償労働の貨幣評価」2023年

- 日本の無償労働（家事）は144兆円に相当する。
- うち8割の111兆円を女性が占めている。

1. ジェンダー主流化の視点

(1) 利用者の視点

(2) 担い手の視点

(3) 社会・経済の視点

2. 負のスパイラルからの脱出

2. 負のスパイラルからの脱出

国土交通分野において、ジェンダー主流化について、利用者と担い手の視点で**分野横断で目標**を設定して取り組むことも検討。

